

「港区地域こぞって子育て懇談会」

2006年度～2015年度実践報告

平 野 幸 子

はじめに

明治学院大学社会学部附属研究所相談・研究部門は、地域福祉実践(以下、実践)として、2006～2015年度までの10年間、港区立子ども家庭支援センターの事業「港区地域こぞって子育て懇談会」(以下、懇談会)を共催した。共に企画をする主体となった活動者は、子育て当事者を中心とする地域住民、本学生も当初よりボランティアとして関わりをもった。子育て当事者らと懇談会企画を行うことにより、当事者だからこそ課題提起がなされ、地域住民が子育てや子どもたちの課題に主体的に取り組めるよう支援や連携・共働をしたいと考え取り組んだ実践である。

1 「港区地域こぞって子育て懇談会」実践に至った経緯

明治学院大学社会学部附属研究所(以下、社付研)は、2000年度以降、民間相談機関の立場で地域福祉実践を模索してきた。社付研の実践とは、身近に起こる生活課題(例として、子育てや介護、それらを担うことの多い女性たちの課題等)の解決のために、当事者同士の連帯と彼らによる発信・提案を促し、課題への取り組みを通して、市民一人ひとりが従来もっている力を発揮し、市民としてよりエンパワーするよう支援することと考えてきた。地域の福祉課題解決のための土壌づくりをめざし、市民自らに

よるボランティアな活動を推進する目的で、市民講座等も開催してきた。社付研の実践フィールドである東京都港区には、どのようなボランティアな活動が存在するかを学ぶための研究会開催等も試み、様々な活動者と直接会おうことを意図してきた。社付研の子育て支援領域への接近は、主に2002～2003年度に行った実践を通じて得た情報やニーズから、ソーシャルワーカーらが地域課題として「子育て」を認識したことに端を発した。

社付研には専任ソーシャルワーカー1名の他、3年任期の非常勤ソーシャルワーカー1名が勤務する(本実践の間、計4名が勤務)。大学内の研究所という特徴から、研究所所員(毎年3名の社会福祉学科教員が交代で担当)がスーパーバイザーとして、実践の方向性について協議に参加する。実践として相談活動⁽¹⁾の他、市民講座等の企画実施をする。市民講座等の企画は、相談活動から知り得たニーズから発想し、関係構築した諸活動者と共働する姿勢を基本にする。

社付研の子育て支援に関わる実践は、2004年度から開始した。親子で集う自主グループ活動を含む子育て当事者によるボランティア活動支援を模索し、近隣の関係機関に活動情報や各機関の支援実態等の情報収集から着手した。(資料1)は、社付研が実践を模索し始めた時の発想を挿入した懇談会実行委員への説明資料であ

- ・子育て中だからこそできる
発信と地域活動
- ・地域の大人たちが
子育ての当事者になれるように

社会学部付属研究所にはおもちゃ付きのへやがあり、ママたちのボランティア活動（ミニコミづくりや仲間づくりなど）の支援を2004年に始めました。ひとりぼっちで子育てする人がないように、子育て/子育て環境の向上へ向けて、まずは子育て当事者による主体的な活動の活性化を願い、私たちにできること・応援できることを模索してきました。

2004～2005年度に子育て当事者による自主グループ活動者との出会いを得て、2005年度その活動者らと「都心で子育てまっ最中！ママ・パパからの発信～子育てをささえる地域創りとは～」をテーマとする市民講座を実施した(2006年3月開催)。講座開催を通し、子育てをささえる地域創りの課題や子育てグループの活動上の課題や要望を知ることとなった。この企画過程と開催日当日、港区立子ども家庭支援センタースタッフに参加を呼びかけ、当日はコメントも依頼した。

上記の関係構築の結果と考えられるが、2006年5月港区立子ども家庭支援センター（以下、センター）より、「港区地域こぞって子育て懇談会」の企画を委託したいとの相談を受けた。懇談会は、子育て当事者を含む関係者に地域ぐる

みで子育てしようと呼びかけ、地域内にネットワークを築くことも目的として、子どもと子育て環境向上のため情報や意見を交換する場である。社付研は、懇談会企画委託を受け、子育て当事者が参画できるよう支援することを通じ、子育て当事者の発信や提案の機会を作れることと、その過程を通して子育て当事者グループ間の関係構築に寄与できる、との理由から受託を決め、これらを実践の目的とした。

2006年度時点の港区の「港区地域こぞって子育て懇談会」事業の位置づけ等は、以下の通りである。

図1 民間団体の役割と関係性

思考的な人達へ構成については、区が関与するが、そのコーディネートや先行事例の活用による資料作成については、すでに先行している民間団体等のノウハウを活用することが合理的であり、委託により、その信頼を生かす。

区

子育てが終わった

高齢者

地域での子育てを推進する民間団体等

事業所

地域の団体

民間団体の活動を、地域に応じた活用した成果を具体的な提案や報告としてまとめ、区にフィードバックする。区は施策を生かす、または、支援を依頼する。

子育て中の親

直接的支援

事業の概要：男女平等参画の視点で地域ぐるみで子育てができる環境づくりのため、地域に出向き、「地域こぞって子育て懇談会」を開催する。地域での子育て支援を推進する民間団体等に、講師派遣または研修委託形式で懇談会運営を依頼し、区民、団体、企業等の参加を求め、区内5地区での連続的な講座または研修等の形式で実施する。所管課は、子育て推進課子ども家庭支援センターの機能とする。

対象：在住・在勤・在学者・事業者

目的：子育てに関係ないと考えていた人や企業を巻き込み、地域ぐるみで子育てを支援する取り組みを考える機会とする。懇談会をきっかけに地域で有効な取り組みが多数創出された場合、実現可能な事業については、平成18年度以降に助成制度の創設を検討し、地域での取り組みをバックアップする仕組みを検討していく。

3 各年度の「港区地域こぞって子育て懇談会」実践経過

社付研が、センターと懇談会を共催した10年間の経過を〈年表〉に提示する。〈年表〉は、懇談会の公式報告書や記録類(非公式記録含む)を基に作成した。年度毎に、掲げたキャッチコピー、内容、外部協力者・報告者等、活動紹介団体数、懇談会の形式、参加者数、参加者内訳、実行委員の構成等、「地域こぞってネットワーク会議」参加者/団体数、連動した社付研の実践活動、担当ソーシャルワーカーを記載した。

4 各期の「港区地域こぞって子育て懇談会」実践の経緯と成果

〈年表〉の通り、主な担い手の特性や実施形式等の懇談会の特徴から、10年間の実践経過は、便宜的に3つの時期に分けられる。各期の担い手の特徴、懇談会の内容等の経緯、事後の発信内容、連動した社付研の実践活動の経緯に関し、〈年表〉を補足する形で以下に提示する。

■第1期：2006年度・2007年度・2008年度

2005年度市民講座に参集した子育てグループ活動者が、第1期の主な担い手であった。幼稚園利用年齢の子どもをもつ母親で、自営／経営の手伝いをする人を含む専業主婦中心だった。2008年度になり、懇談会参加者が初めて実行委員へ応募したり、外勤フルタイム勤務の母親の

初参画があった。2007年度と2008年度は、子育てグループ間のつながりとして活動を開始したみなと子育てネットWa.Wa.Waのプロジェクトが実行委員を担った。

センター側の、懇談会実施を通して子育てグループ活動者のスキルアップもめざしたいとの意向を受け、実行委員会と併行して活動スキルアップ講座も開催した。

2006年度は事業共催初年度の上、実行委員会開始から開催日までの時間が限られていたことから外部協力者に相談して企画案を作成し、実行委員が協議した。実行委員のアイデアから、内容に「子どもたちと遊ぼうタイム」が加わった。懇談会内のバズセッション部分を、丸くなって話す場面をイメージできるよう「ラウンド・ミーティング」と称した。その進行方法とお題は、外部協力者の助言から以下とした。

◇ラウンド・ミーティングの進行ルール→
「どんどん話しましょう」「他の人の話も聞きましょう」「アメをなめながら気楽にお話ししましょう」

◇お題→「子育てをささえる地域創り」の実現に向けて、大切にしたいこと、めざしたいこと、必要と思うことなどを話し合い、グループでひとつの「地訓」をつくる。「地訓」とは、地域の家訓の意味。

2006年度キャッチコピー「みんなで聞こう・いっしょに話そう」は、活動スキルアップ講座講師の「広報に使用する言葉は自分たちの言葉で語りかけよう」との指導から、実行委員が検討し作成された。その後、継続して懇談会の体を表す表現として使用されていった。

2007年度は、実行委員の発案により行った「子育てアンケート」調査の結果報告(寸劇付きで

地訓

○高輪地区開催【10か条】

- ・まずは一歩をふみだそう!!
- ・声かけでまわりに友達を。はじめの一歩
- ・顔をあげて笑顔であいさつ〜チョコッと外に出てみませんか?
- ・おせっかいでもいいから一声かけよう。何度でも(めげないで)
- ・どの子も“我が子”と思って(あいさつ、叱る)。どンドン出よう。
- ・子どもを中心に...若者・ママ・じいちゃん・学生・ババちゃん♥!わ・わ・わ・わ♥
- ・自ら積極的にに関わりあっていこう!大人から子どもにも、子どもから大人にも
- ・家族みんなで イベントを!
- ・「地域の行事」って実は ...コミュニケーションの場なんだよね

地訓

○芝地区開催【11か条】

- ・あいさつ 一番のまちっ
- ・「あ(あかるく)」「い(いつも)」「さ(さわやかに)」「つ(つきあおう)」
- ・まずはあいさつ 気軽に話そう。誰とでも。...できれば毎日20分
- ・えがおであいさつを交わそう!子どもをまん中にあつまらまづくり(学校・公園・児童館・その他、様々なスペースをつかって)
- ・あいさつからつながろう(ひと・子育てサークル・企業・商店会・町会・学校)
- ・笑顔・あいさつ・見守る・地縁 つながる場
- ・♥みんなで子育て 身近なかかわりからはじめよう♥
- ・サラリーマンの街じゃない! 親子が楽しめる街に変えよう!近所で声かけ。芝児童館に代わる施設を。
- ・子育ては誰でもまきこみ迷惑かけちゃえ!!
- ・バリアフリー 街も心もフレンドリー
- ・「アイラブユー♥」でつながろう

資料3 2006年度できあがった「地訓」

実施)、調査から見出されたニーズから3つの提案(資料4)を行い、参加者とディスカッションした。キャッチコピー「急募!子育てにやさしい店と街」も調査結果から導かれた。実行委員の提案に対し参加者からは、「子育て支援は賛沢だ」とのコメントも残された。


・・・私たちの3つの提案・・・

子育てにやさしい
店と街!!

子育てにやさしい
店の基準づくり

子育てバギー
キャラバン
やいほ〜す!

子連れで集える
オープンスペース
大募集!



資料4 2007年度の提案

翌2008年度は、改めて前年度提案の吟味をし、先行する他地域の拠点を視察したり、実行委員が伝えたかったメッセージの再検討をした。再検討の末掲げたキャッチコピーが、「つながりの輪をひろげたいなあ」だった。社付研は、「子育て支援は賛沢」との指摘に対し、2008年度このテーマの市民講座を行った。また、2007年度調査協力者へ呼びかけ、「子育てをささえる地域創り座談会」と称するグループインタビュー

を実施し、「子連れでゆっくり安心して利用できる店舗」「子連れで集えるオープンスペース」の具体的なイメージや要望を把握し、実行委員会へ参考意見として提供した。2008年度懇談会は、「子育てにやさしいまちへの次なる提案」として、(資料5)の内容が寸劇付きで発信された。2006年度と2007年度の参加者内訳から、地域活動者の参加はあるが子育て支援関係機関(事業所)の参加が少ないこと、提案内容をそうした関係者に届けたいことから、2008年度コメントを依頼する形で子育て支援関係機関関係者13組に参加してもらった。参集の上記関係者から、子育て支援に関わる関係者が横つながりで集まれる場を求める声が残された。

事業開始当初のセンター側の意向は、港区内5地区での懇談会開催だったので、2006年度はセンターの所在する芝地区と社付研が所在する高輪地区で開催し、翌2007年度は子ども急増地域の芝浦港南地区で開催した。2008年度以降は、港区全域を対象として年1回の開催方式で継続した。2008年度以降懇談時間確保のため、子育てグループの活動紹介は、プレゼンテーションから展示に変更した。センター地域活動室や社付研を利用する団体等、子育てや子どもたちを応援する活動団体の展示による活動紹介への参加を呼びかけ、活動への支援と共に、懇談会告

「子育てにやさしい街への提案」
“次なる提案”

“つながりの輪を
ひろげるためにできること”

- 居場所づくりから、地域の中に顔見知りをつながりづくりをしたいです。
子育て世代だけでなく、異世代のつながりもひろがりますように。
- 子育て支援関係機関のみなさん、子育て当事者がお客さんにならず、主体的につながりをつくれるよう、これからも応援してほしいです。
- 子育て支援関係機関のさまざまな事業の場も、地域のさまざまなつながりをひろげられる場になったらうれしいです。

資料5 2008年度の提案

知や参加を促す機会とした。

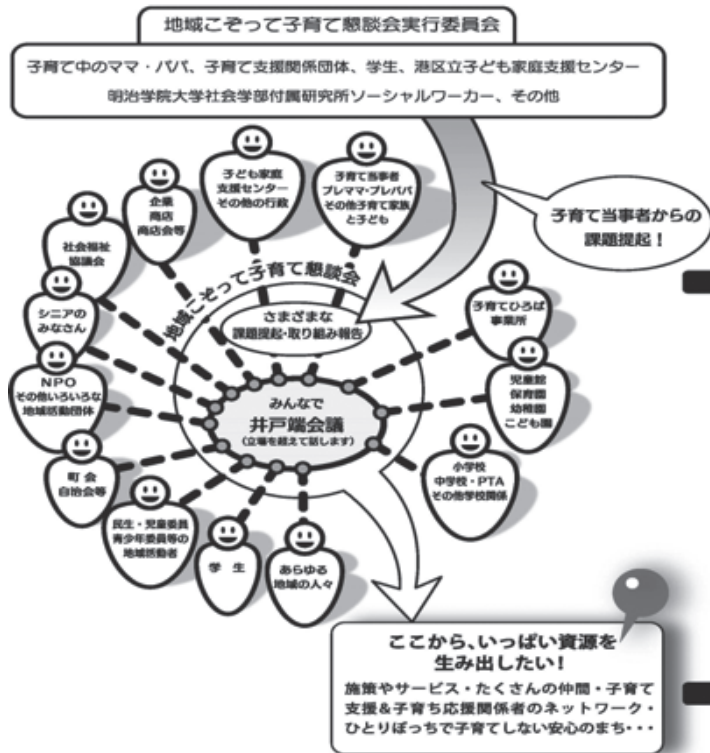
■第2期：2009年度・2010年度・2011年度

第2期は、みなと子育てネットWa.Wa.Waの

当初メンバーが減少し(子どもの小学校入学期の母親の復職その他の理由による)、上記メンバーの口コミと社付研主催市民講座(「子育て支援は贅沢か? その2」)参加者等へ呼びかけ、新規メンバーを募った。2010・2011年度は、実行委員募集のための活動説明会も開催した。2009年度初めて父親の参加を得たり、自営/経営の母親や子育て期の勤務のあり様を模索する母親等が加わった。2010・2011年度は、育児休業中を含む外勤フルタイム勤務の母親や自営/経営(ベビシッター派遣やベビーマッサージ業含む)を担う母親が複数加わり、母親たちの就労状況が多様になった。子どもたちの年齢は、1歳前後を含む就学前が中心ながら小学生も増え、中学生も加わった。

港区地域こぞって子育て懇談会は、こんな場です！

地域の子育て・子育て環境向上のため、子育て中の人たちと、
地域で応援するよ～という多様な人たちが、共に集う場です。



資料6 「地域こぞって子育て懇談会」とは?

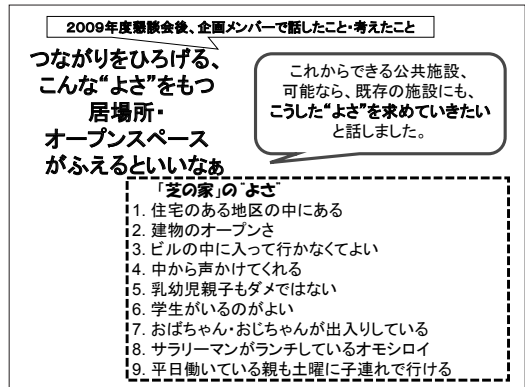
新たな実行委員が加わり、改めて懇談会とは何かを共有する必要がある、「地域こそって子育て懇談会とは？」の(資料6)を作成した。年度の開始時には、懇談会の「基本コンセプトと大切にしていること」も共有することにした(資料7)。懇談会企画の中で用いた「ラウンド・ミーティング」は、わかりにくく固い印象があるとの意見から、2010年度以降「井戸端会議」を用いるようになった。

- ◇基本コンセプト：
子育て当事者による 課題提起から井戸端会議へ
- ◇大切にしていること：
立場を超えて話せる対話の場づくり
市民としてできることを考え行動したい
顔の見える共働する関係を築き上げたい

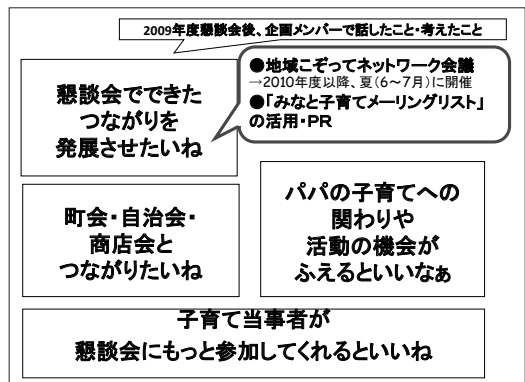
資料7 基本コンセプトと大切にしていること

2009・2010年度実行委員会では、前年度の懇談会で語られた、地域のつながりの中で子育てすることの課題に関し、それぞれの子育ての思いや悩みを語りながら協議した。そこから「子どもをもって感じたよ、地域のつながりだいじだね」というメッセージや、「まちに顔見知りがあると安心できるね」というキャッチコピーが生まれ、実行委員は各自の実感を自分の言葉で発信した。また、継続委員はじめ新たな委員からも、港区内の地域のつながり創りの先進的な担い手の情報が集まり、10組の報告を共有した(〈年表〉参照)。

2010年度は、前年度の多様な主体による取り組みを踏まえ、実行委員たち=子育て当事者自身が取り組む居場所づくりとアイデアを報告し、「まちの中に、あなたや子どもの居場所ありますか？」と問いかけた。人と場と情報等を「とりもつ」ことの重要さが発信され、井戸端会議では、求められる様々な居場所像やその確保のための課題が数々挙げられた(資料10-11参照)。



資料8 2009年度つながりをひろげる居場所の「よさ」

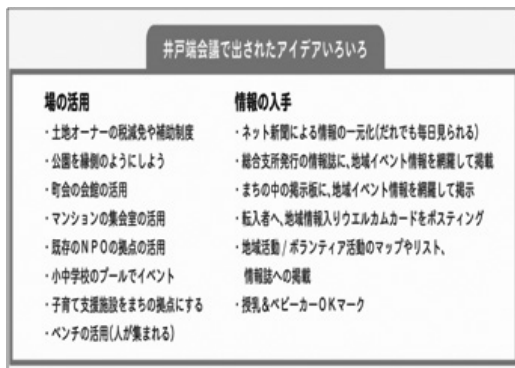


資料9 2009年度残された課題

2008年度の子育て支援関係機関関係者からの横つながりの場を求める声と、懇談会でのつながりを発展させたいという声が毎回参加者から残されたことから、センターと協議し2010年度以降「地域こそってネットワーク会議」を開催することになった。この会議は、「港区の中で子育てや子どもたちを応援しようという、同じ目標に向かう関係機関/団体同士が、直接顔を合わせ、互いの取り組みを知り、関係を築き、共働の可能性を拓ける」ことを目的とする。懇談会は、子育て当事者の課題提起が起点である。拓けるネットワークも子育て当事者という生活者をまん中に、様々な子育て支援実践者/地域内の活動者/企業商店を含む事業所等が情報交換と交流のために集まる場と想定した。1月開



資料10 2010年度提案された居場所イメージ



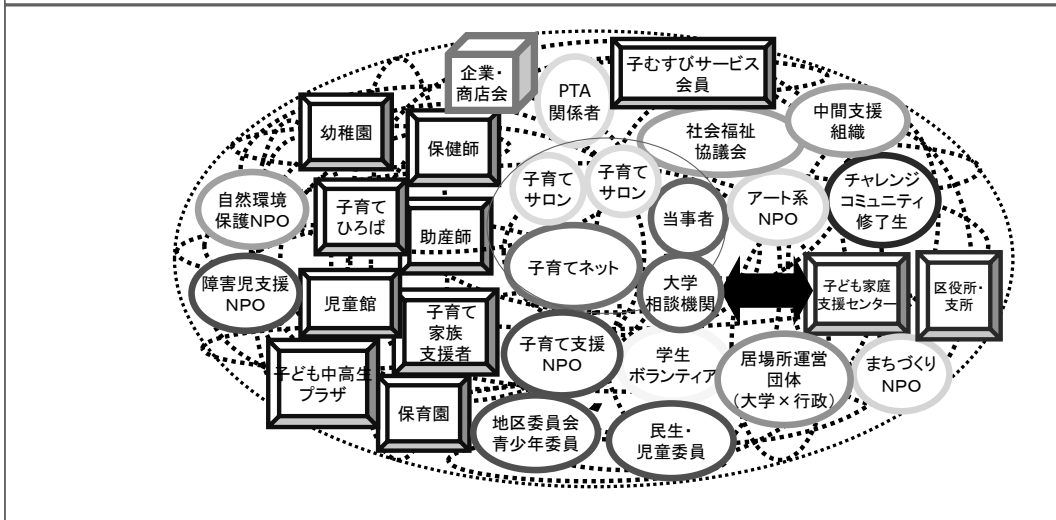
資料11 2010年度出されたアイデア

催の懇談会から半期をおいた時期(6～7月)に行うことにした(資料12参照)。懇談会でのつながりを発展させるためのツールとして、すでにみなと子育てネットWa.Wa.Waが運営していた「みなと子育てメーリングリスト」も有効活用しようと、港区の事業ではないことを明記しつつ、参加者はじめ報告書等を見た方も対象として広報に力を入れることにした。

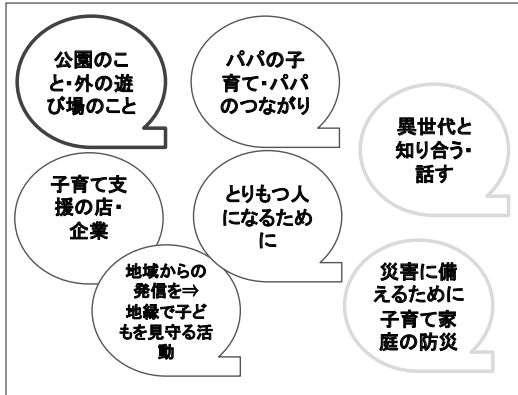
第2期は、実行委員の層の多様な拡がり子ども年齢の拡がり双方から、子育ての話題も幅広くなり、各論の話題が求められ始めた。地域のつながりに関する話題に絞っても(資料13)の通り、いろいろな切り口の話題が求められた。2011年3月に起こった東日本大震災の体験から、災害時の備えとして地域のつながりの大事さを痛感した実行委員が多く、2011年度はこのテーマに向き合った。「みんなで始めたいね」となりの人とのつながりづくり」は、地域ご近所とのつながりづくりと共に、いつどこで経験することになるかわからない災害時に偶然

港区地域こぞってネットワーク会議イメージ図

これまでに開催した「港区地域こぞって子育て懇談会」や「港区地域こぞってネットワーク会議」に参加された様々な団体等を入れた港区地域こぞってネットワーク会議のイメージ図です。このような多様な団体等を表現したイメージ図であり、図上の位置や図の大きさに意味はありません。



資料12 地域こぞってネットワーク会議イメージ図



資料13 2010年度ふりかえりから今後のテーマ検討

隣り合わせた人との関係づくりも視野に入れたキャッチコピーだった。2つのエリアの被災地の方々のメッセージは、実行委員有志が支援活動に関わり縁のできた方たちに依頼し、父親たちのつながりづくりの取り組みと組み合わせた報告を共有した。

社付研が連動した実践も、2011年度は「隣人まつり」をテーマとする市民講座を開催し、大震災の教訓と地域のつながりを考えた。以降社付研の実践は、このテーマを発展させる意味合いで、「社会的孤立防止への取り組み」に焦点化した。

2009年度以降報告書冒頭に、懇談会の企画過程や内容と今後の課題等のまとめを掲載した。2010年度以降、上記まとめを「地域こぞって子育てかわら版」として別刷りし発行することにした。港区内の幼稚園・保育園・公立小学校(2013年度以降公立中学校も追加)の園児／児童／生徒数分、児童館や子育てひろば等を通じ子どもがいる家庭への配布に取り組んだ(2010～2012年度は2万部、2013年度以降2万3,000部発行)。

■第3期：2012年度・2013年度・2014年度・2015年度

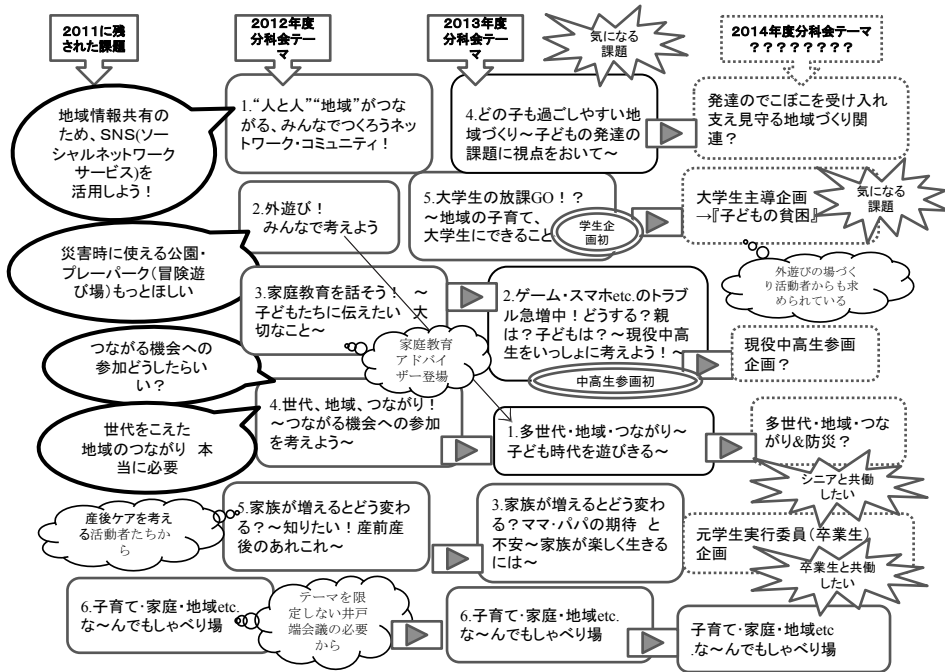
2012年度以降、懇談会開催半年前の時期に行う地域こぞってネットワーク会議時に実行委員

募集を呼びかけ、子育て当事者メンバーのほか、子育て支援関係機関スタッフも実行委員として加わった。「地域こぞって子育てかわら版」の網羅的な配布により、かわら版を見て実行委員へ応募する子育て当事者も現れた。第3期を通じ、専業主婦を含む様々な就労形態の母親と父親の参加があり、子どもの年齢も、1歳前後から幼稚園年齢までの就学前のほか、小学生・中学生・高校生・大学生・社会人までとあらゆる年代となった。第3期以降、継続実行委員が母親・父親共に複数おり、より主体的な協議と懇談会実施の担い手集団として委員長の選出が行われ、会議の運営が担われるようになった。

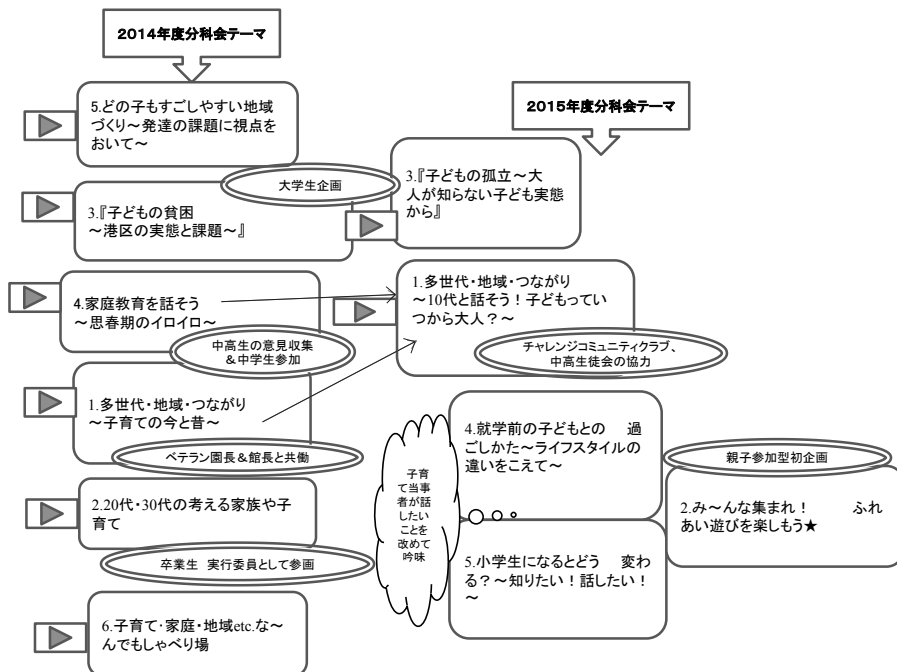
2012年度は、2011年度懇談会で残された課題を各テーマとして取り上げる分科会形式へと移行、第3期の4年度間すべて分科会形式で実施した。全体会のもち方も検討され、分科会時間確保のために2014・2015年度は事後の全体会は行わず、2015年度は親子で楽しめる交流会実施等を試みた。(資料14)は、2014年度当初の実行委員会で提示した事務局資料(一部修正)で、2014年度の分科会テーマの検討に用いた。(資料15)は、(資料14)以降のテーマ提示のため追加作成した。

第3期も継続実行委員ほか新規の応募も毎年度数名あったが、受け入れに関し課題を残した年度もあった。2013～2015年度は、本学法学部鍛冶教授のゼミが授業の一環として参画、一分科会の企画を担った。2013年度は、「ゲーム・スマホetc.のトラブル急増中!～」分科会で初めて中高生を、「子ども時代を遊びきる」分科会ではシニアの話題提供者を迎えた。当初から本学生は関わってきたが、企画の中心は子育て世代だった。その懇談会が、大学生による企画に加え、中高生もシニアも話題提供者となって対話の中に入るといふ、多世代の人々が連なる様相の懇談会へと進化した。また、2008年度以

「港区地域こぞって子育て懇談会」2006年度～2015年度実践報告



資料14 分科会テーマの変遷1



資料15 分科会テーマの変遷2

心だが、子育ての課題や保護者の悩みごとは子どもの年齢と共に変化するし、なくなるわけではないことが常に語られ、課題提起に反映された。発信された提案の一部は、地域における具体的な市民活動として展開した。目的の通り、子育て当事者による発信と提案の機会は作れたが、発信された提案の具体化のために実践としてすべきこと(例えば、活動主体となる可能性ある人たちの情報収集や支援・既存の施設等の提案活用への支援や検証等々)について、都度丁寧に検討できるとよかった。

「地域こぞって子育て」という主題から、一貫して発信/提案された内容は、2012年度以降一分科会として独立/継続された「多世代・地域・つながり」というキーワードであった。具体的には、地域の「多世代の人々と交流したい」で、その中身は様々、「大学生と子どもを含め、年齢の異なる子ども同士」「祖父母世代と子ども」「シニア世代と子育て現役世代と子育て予備軍(大学生含む)」「子育て現役同士」等々の間の交流である。このため「交流できる居場所がほしい」、そして、ハードの場や行事だけあってもうまくつながれず、つながりが機能しないので、「とりもつ人(びと)」の存在が大切である。これらは、地域で見え隠れする子どもたちや親子の姿への懸念、例えば「出かけられない孤立する親子」「見えにくいけど存在する経済的貧困の影響(精神的貧困の存在も語られた)」「子どもが『遊ぶ』を阻害する不安と禁止」「忙しすぎる大人たち(保護者含む)の子どもへの影響」等々の状況打破への問いかけでもあった。

発信/提案は、主に誰に届けられたのか。懇談会には、〈年表〉の通り、子育て当事者のほか、毎回地域活動者、子育て支援関係機関、企業商店、その他と分類される、多様な人たちが参加した。懇談会の場で、そうした多様な関係者たちへ発信/提案を届けられたと言ってよい

だろう。報告書によって、当日の参加者以外の人々への発信/提案もある程度はなされただろう。一方、子育て当事者に対しては、2010年度以降「地域こぞって子育てかわら版」配布により、港区内の子育て家庭に行き渡ることを目論んだ。だが、「出かけられない孤立する親子」や「忙しすぎる大人たち＝保護者たち」に、そして新たに子育てする人たちに、受け取ってもらえるメッセージとして届けられたのか。毎回「このような懇談会があることを知らなかった」という声も残された。受け取ってもらえるメッセージとしての発信/提案、そして前提としてそもそも参加しやすい場づくりについては、改めて検討すべき課題といえよう。

実践の目的(2) 懇談会の過程を通して子育て当事者グループ間の関係構築に寄与する。

実践の経緯の通り、懇談会開始当初、幼稚園利用の母親中心の子育てグループ活動者が実行委員になり、そのつながりを継続させようという団体＝みなと子育てネットWa.Wa.Waがつくられた。その後上記団体は、毎年みなと区民まつりへ出店し、出会ったグループと共に活動をPRし、バザーで活動資金作り等の活動を展開している。

各年度とも実行委員応募者は、PTA含め、子育て当事者としての自主的な活動に関わる者が複数含まれていた。実行委員会の場そのものが、子育て当事者グループ間の関係構築に寄与したといえるだろう。

懇談会での出会いからつながり続けたいという声を受け、「地域こぞってネットワーク会議」開催に至り、子育て当事者を含むネットワーク化への模索にもつながった。だが、「地域こぞってネットワーク会議」は、ネットワークに団体が登録するorしない等の組織的な形態ではなく、会議事後はメーリングリストへの参加を呼

びかけるのみの緩やかなつながり維持である。懇談会から派生したため港区全体が対象なので大きな網の目である。だが、緩やかで大きな網の目ながら、子育て当事者グループ間の関係構築に限らない、それらを含みながら広がる子育て支援関係者の関係構築に寄与しているといってもよいだろう。

子育て当事者の様々な活動者との関係構築は、懇談会当日の活動紹介(展示)参加への呼びかけや、演奏やダンス等の活動披露を呼びかけ

ることによっても意図し、子育て当事者として懇談会への参加も促す機会となった。

おわりに

2016年度「港区地域こぞって子育て懇談会」は、一般社団法人みなとこぞってネットワークがセンターと共催する。上記法人は、継続して活動してきた実行委員=子育て当事者の地域住民により設立された法人である。社付研は、後方支援する関係機関として一歩引いて懇談会に

年表 「港区地域こぞって子育て懇談会」開催の経過(2006年度～2015年度)

年度	掲げた キャッチ コピー	懇談会の内容	外部協力者・報告者等(敬称略、所属肩書等はすべて当時)	活動 紹介 団体	懇談 会の 形式	参加者数	
2006年度	みんなで 聞こう・ いっしょに 話そう	＊2地区とも同内容で実施 ・子どもたちと遊ぼうタイム～♪ ・港区内の子育てグループの活動紹介 ・参加者によるラウンド・ミーティング(「地訓」づくり)	(ファシリテーター) 高輪地区 森玲子(実行委員) 芝地区 加留部貴行(NPO法人日本ファシリテーション協会理事・九州支部長)	10 団体	バス セッ シ ョ ン	高輪地区 74名 芝地区 80名	
2007年度	急募! 子育て にやさしい 店と街	その1: ベイエリアのママ・パパたちに聞きました!～アンケート調査の報告～(芝浦港南区「子育てアンケート」調査実施/結果報告) その2: 「子育てにやさしい店と街」へ!!! ～私たちの提案～ その3: 聞かせてほしい、みんなの意見(参加者によるラウンド・ミーティング)	(調査協力機関) 芝浦港南区児童館、保育園、幼稚園 (調査は、芝浦港南区児童館における就学前の子ども対象の催しに参加した保護者と同地区内の幼稚園・保育園利用保護者対象に実施)	13 団体	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	芝浦港南 地区 80名	
2008年度	つながりの 輪をひろげ たいなあ	・港区内の子育てグループ活動紹介(展示) ・「子育てにやさしい街への提案」取り組み状況報告と「次なる提案」 ・子育て支援関係機関のみなさんよりコメント(13組)	(視察先) コミュニティカフェぶりっじ・おでかけひろば@あみーご(世田谷区) 千代田区社会福祉協議会子育てサロン・フルーツエリア鶴	19 団体	報 告 ・ 提 案 を 受 け バ ス セ ッ シ ョ ン	97名	

「港区地域こぞって子育て懇談会」2006年度～2015年度実践報告

関わることになった。住民主体の法人による実践が行政との共働を成し遂げられるよう、社付研は適宜バックアップするという次の実践のステージに移行した。

10年間にわたる実践の機会を提供して下さった港区立子ども家庭支援センターの皆様、社付研において共に実践に携わってくれたソーシャルワーカー4名、いっしょに懇談会を創りあげて下さった地域の皆様、ボランティアとして参加してくれた学生たちに、あらためてお

礼申しあげます。

【注】

- (1) 社付研は、2001年度まで個別の方々対象の生活相談を中心とした活動を行っていた。その後、地域福祉実践活動が中心的な活動になりつつも、2009年度までは上記生活相談の看板も下ろさず継続した。2010年度以降、個別の相談活動は、「地域活動相談」として地域の様々な方からのボランティアな活動への支援として位置づけ実践している。

参加者内訳	社付研/子家センスタッフ以外の 実行委員の構成等	地域こぞってネットワーク会議参加者/団体数	連動した社付研の実践活動/ 担当ソーシャルワーカー
(高輪地区)子育て中48%(実行委員含む) 地域のみなさん28% 学生ボランティア12% その他12% (芝地区)子育て中41%(実行委員含む) 地域のみなさん25% 学生ボランティア14% その他20% * 地域のみなさん→地域の子育てに関心のある方、民生委員等、青少年委員、保護司、子育て家族支援者、子むすび協力会員、町会、児童館職員、ボランティア、保育園職員、NPO、ケーブルテレビ、助産師、企業社会貢献担当者他 **その他→センター・社付研スタッフ他	地域12 (母親のみ、自営/経営手伝い含む専業主婦中心) * 子どもの年齢→幼稚園利用 年齢多数 学生10		・子育てグループつながりづくり支援 ・活動スキルアップ講座(センター共催) 川森茂樹・山田祐介「ITをつかって活動をPRしよう」 吉田理映子「参加者集めのためのチラシづくり」 青木将幸「活動紹介のためのプレゼンスキル」 後藤麻理子「報告書のまとめ方」 ◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・森玲子
子育て中25% 地域活動者10% 企業商店6% その他29% 学生ボランティア10% * 地域活動者→民生・児童委員、NPO、子むすび協力会員、子育て家族支援者、子育てグループほか **その他→保育園関係者、助産師、区議会議員、行政、研究者、障害者団体関係者ほか	地域12 (母親のみ、自営/経営手伝い含む専業主婦中心) * 子どもの年齢→幼稚園利用 年齢多数 学生12		・みなと子育てネットWa.Wa.Wa団体設立支援 ・活動スキルアップ講座 松田妙子「先例から学ぶ子育てネットワークの展開」 NPO4団体「NPOによる子育て応援プログラムを知ろう」 幾島博子・長谷川美知子「活動資金や協賛の獲得方法」 青木将幸「意見が出しやすくなるミーティングの工夫」 加留部貴行「子育て相互支援活動からめざす地域創り～活動の評価をしよう～」 ◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・濱田智恵美
子育て中21% 地域活動者18% 企業商店6% 子育て支援関係機関24% 学生ボランティア12%	地域8 (母親のみ、自営/経営手伝い含む専業主婦中心、懇談会参加者参画、小学校入学契機にやめるメンバー複数、外勤フ		・みなと子育てネットWa.Wa.Wa団体運営支援 ・市民講座「子育て支援は賛沢か？」 講師： 野沢慎司「子育て期のストレスとサポート資源」

年度	掲げた キャッチ コピー	懇談会の内容	外部協力者・報告者等(敬称略、所属肩書 等はすべて当時)	活動 紹介 団体	懇談 会の 形式	参加者数	
2008 年度	つながりの 輪をひろげ たいなあ	・みんなで聞こう・いっしょに話そう(参加者 によるラウンド・ミーティング)	ふれあいの家-おばちゃんち(品川区) (子育て支援関係機関コメント協力者) 台場児童館保志館長 あっぱい台場渡邊リーダー ベネッセチャイルドラインケアセンター港 南池戸園長 芝浦幼稚園橋本園長 品川駅前港南商店会秋山会長 民生・児童委員子育て支援部会廣澤部会長 あっぱい麻布和田代表 西麻布保育園菅野副園長 子育てひろば「あい・ぽーと」池田副施設長 子育て・家族支援者安藤氏 みなと子育て応援プラザPokke川原エリア マネージャー 港区子ども支援部子育て支援計画担当神田 課長 港区立子ども家庭支援センター川上所長	19 団体	報 告 ・ 提 案 を 受 け バ ス セ ッ シ ョ ン	97名	
2009 年度	まちに 顔見知りが いると安心 できるね	・港区内の子育てグループ活動紹介(展示) ・オープニング(クルポنزによる演奏) ・ママ&パパ発メッセージ「子どもをもって 感じたよ 地域のつながりだいじだね」 ・「はじまっているよ!地域のつながり創り」 (10組の取組報告) ママたちの取り組み パパたちの取り組み おばちゃん・おじちゃんたちの取り組み まちのいろいろな人たちの取り組み ・みんなで聞こう・いっしょに話そう(参加者 によるラウンド・ミーティング) ・クロージング(ちびっこナイト養成倶楽部 によるパフォーマンス)	(取組報告者) 働くママ&働きたいママネット“ゆいまー る”影田智子 こども療育パオ利用者佐藤美恵 ヒマラヤスギの会山崎一稔 (仮)お台場おっちゃんの間瀬法美 チャンレンジコミュニティ大学修了生 島 田茂都子・井林靖雄 すみっこ文庫荒澤經子 三田地区まちぐるみ大運動会黒川健治 白金志田町倶楽部山田聡 芝の家坂倉杏介	20 団体	取 組 報 告 を 受 け バ ス セ ッ シ ョ ン	97名	
2010 年度	まちの中に、 あなたや 子どもの 居場所 ありますか?	・オープニング(クルポنز) ・ママ&パパ発地域のつながり創り活動報告 「居場所を感じたい・ひろげたい」 〈実践編〉 ・子どもとの暮らしの中で、それぞれの居場 所づくり 「子育てサロンにママと子どもたちあつまれ」 「ママとおばちゃんたちはつながりました」 「いよいよ子どもが小学生!地域の商店に親 子であいさつまわり」 ・まちの組織でのつながり創り 「町会のお手伝いデビュー」 「消防団&自治会長パパたち」 「町会&パトロール活躍パパのつながり創り」 ・いろいろな場でのつながり創り・居場所づくり 「スタジオ&レストランを活用して親子あつまれ」 「公園を創り守る活動に参画しています」 〈アイデア編〉 「まちの中の空きスペースを活用しよう」 「足湯があったらいいなあ 縁側もいいなあ 公園deスープもいいなあ」	(取組報告者) 〈実践編〉 ママのじかん赤松紀子・mama meets mamas関聡子 みなと子育てネットWa.Wa.WaPOPOPO編 集チーム北岡真由美&西川麻友美・すみっ こ文庫荒澤經子 関根章代 おおきなき/御田小PTA廣田千秋 高輪消防団第一分団益満ひろし 三田社宅自治会石平達也 ヒマラヤスギの間瀬一 RedRobin河野亜実 どんぐりの会山崎悦子・河越美雪・向後容 代 〈アイデア編〉 高松中PTA鍛冶智也 BABA&BABY江波戸由紀	23 団体	報 告 を 受 け て バ ス セ ッ シ ョ ン	131名	

「港区地域こぞって子育て懇談会」2006年度～2015年度実践報告

参加者内訳	社付研/子家センスタッフ以外の 実行委員の構成等	地域こぞって ネットワーク会議参加 者/団体数	連動した社付研の実践活動/ 担当ソーシャルワーカー
<p>その他19%</p> <p>* 地域活動者→民生・児童委員、子育て支援NPO、子育て家族支援者、子むすび協力会員、子育てグループ</p> <p>** その他→区議会議員、障害者団体関係者、ボランティアセンター、研究者、大学生、センター・社付研スタッフ</p>	<p>ル勤務の母親初参画)</p> <p>* 子どもの年齢→幼稚園利用 年齢多数、小学生低学年複数 <u>学生28</u></p>		<p>松原康雄「子育て支援の現状と課題」(共に本学社会学部教授)</p> <p>・「子育てをささえる地域創り座談会」(グループインタビュー)</p> <p>・活動スキルアップ講座</p> <p>みなと子育てネットWa.Wa.Wa「子育て中だからこそ！やれる企画いろいろ」</p> <p>妻鹿ふみ子「いろいろな人たちにたすけてもらおう」</p> <p>品川SKIP編集委員会「子育て情報を発信しよう！」</p> <p>加留部貴行「ネットワークって、どんなつながり？」</p> <p>◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・濱田智恵美</p>
<p>子育て中19%</p> <p>地域活動者33%</p> <p>子育て支援関係機関14%</p> <p>学生ボランティア11%</p> <p>その他23%</p> <p>* 地域活動者→民生・児童委員、子育て家族支援者、NPO法人、PTA、子育てグループほか</p> <p>** 子育て支援関係機関→子育て広場事業者、助産院、男女平等参画センター、社会福祉協議会・ボランティアセンター、行政ほか</p> <p>*** その他→区議会議員、研究者、大学生ほか、社付研・センタースタッフ</p>	<p><u>地域12</u></p> <p>(父親3、母親9→外勤フル勤務2名、自営/経営手伝い含む専業主婦多数)</p> <p>* 子どもの年齢→幼稚園利用 年齢多数、小学生複数、中学生1 <u>学生14</u></p>		<p>・市民講座「子育て支援は賛沢か？その2 地域と家族の子育て力 どうはぐくむ？どうささえる？」</p> <p>講師：杉山佳子(本学社会学部教授)</p> <p>◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・濱田智恵美</p>
<p>子育て中39%</p> <p>地域活動者17%</p> <p>子育て支援関係機関17%</p> <p>企業商店2%</p> <p>学生ボランティア4%</p> <p>その他21%</p> <p>* 地域活動者→民生・児童委員、子育て家族支援者、NPO法人、PTA、ボランティアグループほか</p> <p>** 子育て支援関係機関→子育て広場事業者、児童館、社会福祉協議会・ボランティアセンター、行政、医師ほか</p> <p>*** その他→区議会議員、研究者、在勤者、センター・社付研スタッフ</p>	<p><u>地域22</u></p> <p>(父親5、母親17→外勤フル勤務5内育休中1、自営/経営5、自営/経営手伝いと就労検討中含む専業主婦7)</p> <p>* 子どもの年齢→幼稚園利用 年齢最多、1歳前後も小学生も複数、中学生 <u>学生15</u></p>	<p>26団体 42名参加</p>	<p>・市民講座「子育て支援は賛沢か？その3 今、子どもを育てながらはたらくこと～地域が応援できることは何…？～」</p> <p>講師：両角道代(本学法学部教授)</p> <p>・活動スキルアップ講座</p> <p>「子育て中だからこそ！みんなで取り組めば、きっとわかる」(活動説明会兼ねて実施)</p> <p>コメンテーター：渡辺美恵子(ふれあいの家-おばちゃんち代表)</p> <p>「子育てママ&パパがとりもつ地域創り～まちの中に居場所をいっばいつくろう～」ファシリテーター：加留部貴行(九州大学特任准教授)</p> <p>◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・大橋未緒</p>

年度	掲げた キャッチ コピー	懇談会の内容	外部協力者・報告者等(敬称略、所属肩書 等はすべて当時)	活動 紹介 団体	懇談 会の 形式	参加者数	
2010年度	まちの中に、 あなたや 子どもの 居場所 ありますか？	・みんなで井戸端会議 ・地域情報コーナー(子育て/子ども応援グループNPO情報、子ども家庭支援サービス、お気に入りスポット情報)		23団体	報告を受けて バズセッション	131名	
2011年度	みんなで 始めたいね となりの 人との つながり づくり	・オープニング(マノアの会) ・被災地の方の体験から学びましょう 「災害に備え、子どもを守るために地域でしておくこと」 ・港区のパパ/オヤジ発「地域でつながろう！子どもたちを守ろう！」 ・みんなで井戸端会議 ・クロージング(クルボンズの歌と踊り) ・NPO法人イクメンクラブ提供特別プログラム「災害時に役立つ新聞紙の簡易トイレづくり」(任意参加) ・地域情報コーナー(子育て/子ども応援グループNPO情報、港区内の子ども家庭支援サービスほか)	(被災地協力者) 高橋進一・中条富夫・安藤洋(千葉県旭市飯岡地区) NPO法人地球の楽好千葉透理事長(プレゼンター) みなと幼稚園ゴジラの会柳田克 Pokkeパパの会三浦裕太 青南遊子倶楽部岸田公友 ヒマラヤスギの会間瀬一 NPO法人イクメンクラブ長谷川潤 パパ輪会(高輪保育園パパの会)小池一史 こぞってパパーズ鍛冶智也・石平達也(特別プログラム協力) NPO法人イクメンクラブ 日本赤十字看護大学生4名	22団体	報告等を受けバズセッション	166名	
2012年度	つながること で生まれる もの	・はじめの全体会 ・6つの井戸端会議(分科会) ①“人と人”“地域”がつながる、みんなでつこうネットワーク・コミュニティ！ ②外遊び！みんなで考えよう ③家庭教育を話そう！～子どもたちに伝えたい大切なこと～ ④世代・地域・つながり～つながる機会への参加を考えよう～ ⑤家族が増えるとうどう変わる？～知りたい！産前産後のあれこれ～ ⑥子育て・家庭・地域etc.な～んでもしゃべり場 ・おひらきの全体会(出演：クルボンズ) ・地域情報コーナー(子育て/子ども応援グループNPO活動紹介(展示)、港区内の子ども家庭支援サービス情報(資料配布))	(話題提供者) ①坂倉杏介(慶応大学グローバルセキュリティ研究所特任講師/芝の家)、川上慎市郎(浦安市立美浜南小学校PTA会長/グロービス経営大学院准教授) ②嶋村仁志(NPO法人日本冒険遊び場づくり協会)、大石佳正(港区高輪総合支所協働推進課) ③中島佳世(家庭教育支援協会家庭教育アドバイザー/実行委員)、片山うこ(日本作法会師範/実行委員) ④金井由光(三田地区委員会副会長) ⑤実行委員6名	19団体	分科会形式	159名	
2013年度	みんなで なかよく とりもう！	・はじめの全体会 ・6つの井戸端会議(分科会) ①多世代・地域・つながり～子ども時代を遊びきる～ ②ゲーム・スマホetc.のトラブル急増中！どうする？親は？子どもは？～現役中高生といっしょに考えよう！～ ③家族が増えるとうどう変わる？ママ・パパの期待と不安～家族が楽しく生きるには～ ④どの子もすこしやさしい地域づくり～子どもの発達の課題に視点を置いて～ ⑤大学生の放課GO！？～地域の子育て、大学生にできること～	(話題提供者) ①松山貞幸(港三田豊岡町会長) 中村良子(御田小学校PTA副会長) みなと外遊びの会副代表畠田栄 ②高陵中学校生徒会4名・鍛冶智実(高校生) ③石平達也(実行委員) ④実行委員 ⑤明治学院大学法学部 鍛冶ゼミ3年生5名他	22団体	分科会形式	146名	

「港区地域こぞって子育て懇談会」2006年度～2015年度実践報告

参加者内訳	社付研/子家センスタッフ以外の 実行委員の構成等	地域こぞってネットワーク会議参加者/団体数	連動した社付研の実践活動/ 担当ソーシャルワーカー
<p>子育て中76名(45%) 地域活動者21名(12%) 子育て支援関係機関22名(13%) その他21名(12%) 学生ボランティア10名(6%) センター・社付研16名(9%) *地域活動者→民生・児童委員、NPO法人、ボランティアグループほか **子育て支援関係機関→子育て広場事業者、保育園、助産師、小学校、社会福祉協議会・ボランティアセンター、行政ほか ***その他→区議会議員、研究者、在勤者ほか</p>	<p>地域22 (父親4、母親18→外勤フル勤務8 内育休中1、自営/経営4、パート勤務自営/経営手伝い含む専業主婦6) *子どもの年齢→幼稚園利用年齢の就学前と小学生中心、0歳児含む3歳以下複数、中学生 学生18</p>	<p>29団体 44名参加</p>	<p>・市民講座「隣人祭りについて」 コーディネーター：坂口緑(本学社会学部准教授) 実践報告: 隣人祭り日本支部スティーブ・ジャービス・池田力 千代田区社会福祉協議会梅澤稔・西神田町会 角田光正 NPO法人フローレンス今給黎辰郎 ・活動スキルアップ講座 「地域こぞって子育て！ママ＆パパだから『できること』」(活動説明会兼ねて実施) 「想いをカタチにしてみんなを巻きこむ活動へ」 ファシリテーター：石井大一郎(社付研研究調査員) ◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・大橋未緒</p>
<p>子育て中43名(27%) 地域活動者44名(27%) 子育て支援関係機関36名(22%) 学生ボランティア13名(8%) その他23名(14%) *地域活動者→民生・児童委員、町会や地区委員会関係者、NPO法人、ボランティアグループ、子育て家族支援者、子むすび会員他 **子育て支援関係機関→子育て広場事業者、保育園、子ども中高生プラザや児童館、放課GO事業者、助産師、社会福祉協議会他中間支援組織、子ども家庭支援センターや行政関係者ほか ***その他→、区議会議員(元議員含む)、研究者、在勤者、社付研ほか</p>	<p>地域21 (子育て支援スタッフ2、父親5、母親14→外勤フル勤務8内育休中2、自営/経営2、自営/経営手伝い含む専業主婦4) *子どもの年齢→幼稚園利用年齢の就学前と小学生中心、0歳児含む3歳以下複数、中学生、高校生、大学生 学生15</p>	<p>46団体 78名参加</p>	<p>・市民講座「港区内の子育て・子育て環境の今～いくつかの現場から～」(地域こぞってネットワーク会議同時開催) ゲストスピーカー： NPO法人日本冒険遊び場づくり協会 みなとボニータ 港区立子ども家庭支援センター ・活動スキルアップ講座 「世代をこえたコミュニケーションを促す術を学ぼう」 ファシリテーター：加留部貴行(九州大学客員准教授) ◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・濱田智恵美</p>
<p>子育て中50名(34%) 地域活動者25名(17%) 子育て支援関係機関32名(21%) 企業商店2名(1%) 学生ボランティア11名(7%) その他25名(17%) *地域活動者→民生・児童委員、町会や地区委員会関係者、NPO法人、ボランティアグループほか **子育て支援関係機関→子育て広場事業者、保育園、子ども中高生プラザや児童館、放課GO事業者、助産師、社会福祉協議会、中学校、子ども家庭支援センターや行政関</p>	<p>地域22 (子育て支援スタッフ2、父親4、母親16→外勤フル勤務5、自営1、自営/経営手伝い含む専業主婦8、他大生2) *子どもの年齢→幼稚園利用年齢の就学前多数、小学生・中学生複数、高校生、大学生 学生15</p>	<p>41団体 58名参加/ 資料参加 4団体</p>	<p>・市民講座「～社会的孤立問題を考える～注目！地域のつながりをとりもつ人たち」 コーディネーター：鍛冶智也(本学法学部教授) 実践報告： 廣田千秋(こぞって実行委員) 加藤三奈・丸山宗一(港区社会福祉協議会) 渡辺修二(いきいきサロン主宰他) 中村今治(レインボー白金) 築田晴(高輪地区高齢者相談センター) ・活動スキルアップ講座 「対話を紡ぐ方法～多世代・立場を超えた人と交わるために～」全2回実施 ファシリテーター：加留部貴行(九州大学客員</p>

研究所年報 47 号 2017年 2 月(明治学院大学社会学部附属研究所)

年度	掲げた キャッチ コピー	懇談会の内容	外部協力者・報告者等(敬称略、所属肩書 等はすべて当時)	活動 紹介 団体	懇談 会の 形式	参加者数	
2013 年度	みんなで なかよく とりもう！	⑥子育て・家庭・地域etc.な～んでもしゃべり場 ・おひらきの全体会(協力：クルポズ) ・地域情報コーナー(子育て/子ども応援グループNPO活動紹介(展示)、港区内の子ども家庭支援サービス情報(資料配布))		22 団体	分科会形式	146名	
2014 年	みんなで なかよく とりもう！	・はじめの全体会 ・6つの井戸端会議(分科会) ①多世代・地域・つながり～子育ての今と昔～ ②20代・30代の考える家族や子育て ③子どもの貧困～港区の実態と課題～ ④家庭教育を話そう～思春期のイロイロ～ ⑤どの子もすこしやさしい地域づくり～発達の課題に視点を置いて～ ⑥子育て・家庭・地域etc.な～んでもしゃべり場 ・地域情報コーナー(子育て/子ども応援グループNPO活動紹介(展示)、港区内の子ども家庭支援サービス情報(資料配布))、フルート演奏	(話題提供者 ③は調査報告者) ①星野裕子(高輪児童館館長) 林加代子(元港区立保育園長) ②元学生実行委員(明治学院大学卒業生) ③明治学院大学法学部鍛冶ゼミ3年生4名 ④実行委員 ⑤下村博史(3人の男子の父親/実行委員)	18 団体	分科会形式	163名	
2015 年	みんなで なかよく とりもう！	・はじめの全体会 ・5つの井戸端会議(分科会) ①多世代・地域・つながり～10代と話そう！子どもっていつから大人？～ ②〈親子参加型企画〉み～んな集まれ！ふれあい遊びを楽しもう☆ ③〈大学生企画〉子どもの孤立～大人が知らない子どもの実態～ ④就学前の子どもとの過ごし方～ライフスタイルの違いをこえて～ ⑤小学生になるとどう変わる？どう変わった？～知りたい！話したい！～ ・地域情報コーナー(子育て/子ども応援グループNPO活動紹介(展示)、港区内の子ども家庭支援サービス情報(資料配布)) ・交流会(演奏協力：NPO法人インストゥルメント・フォー・チルドレン)	(話題提供者 ①②は協力者、③は調査報告者) ①チャレンジコミュニティクラブ 港区立高陵中学校生徒会 東海大学付属高輪台高校中等部生徒会 明治学院高校校長 ②田島綾子 ③明治学院大学法学部鍛冶ゼミ3年生10名 ④上野志摩(元実行委員) 中鉢康子(元実行委員) 石平達也(実行委員) ⑤金本伸一(青山児童館館長) 西崎伸彦(元小学校PTA会長/現東京都中学校PTA協議会総務理事/実行委員)	22 団体	分科会形式	159名	

「港区地域こぞって子育て懇談会」2006年度～2015年度実践報告

参加者内訳	社付研/子家センスタッフ以外の 実行委員の構成等	地域こぞってネットワーク会議参加者/団体数	連動した社付研の実践活動/ 担当ソーシャルワーカー
係者ほか ***その他→区議会議員、研究者、在勤者、 明治学院大学関係者・卒業生ほか		41団体 58名参加/ 資料参加 4団体	准教授) ◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・濱田智恵美
子育て中45名(27%) 子育て支援関係機関36名(22%) 地域活動者23名(14%) 企業商店3名(1%) 学生ボランティア17名(10%) その他38名(23%) *地域活動者→民生・児童委員、町会や地区委員会関係者。NPO法人、ボランティアグループほか **子育て支援関係機関→子育て広場事業者、保育園、子ども中高生プラザや児童館、放課GO事業者、学校、子ども家庭支援センターや行政関係者ほか ***その他→区議会議員、研究者、在勤者、大学生、中学生、明治学院大学関係者・卒業生ほか	地域24 (子育て支援スタッフ5、父親5、母親11→外勤フル勤務4内育休中1、自営1、自営/経営手伝い含む専業主婦6、卒業生3) *子どもの年齢→0歳児から幼稚園利用年齢、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人 <u>学生17</u>	55団体 80名参加/ 資料参加 1団体	・一般社団法人みなとこぞってネットワーク設立支援 ・市民講座「市民自らが創り出す多世代交流～実践現場に赴いて学ぶ～」 訪問先：えんがわの家 よってこしもだ(横浜市港北区) ・活動スキルアップ講座 「ボランティア活動・市民活動の資金づくり」 講師：清水志穂(東京ボランティア・市民活動センタースタッフ) ◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・濱田智恵美
子育て中53名(33%) 乳幼児9名(5%) 中学生4名(2%) 高校生7名(4%) 大学生19名(11%) 地域活動者16名(10%) 子育て支援関係機関30名(18%) 企業商店9名(5%) その他12名(7%) *地域活動者→主任児童委員、チャレンジコミュニティクラブ、NPO法人、ボランティアグループほか **子育て支援関係機関→子育て広場事業者、保育園、児童館、放課GO事業者、学校、社会福祉協議会、子ども家庭支援センターや行政関係者ほか ***その他→区議会議員、研究者、在勤者、明治学院大学関係者・卒業生	地域21 (子育て支援スタッフ6、父親5、母親10→外勤フル勤務3、自営1、自営/経営手伝い含む専業主婦6) *子どもの年齢→0歳児から幼稚園利用年齢、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人 <u>学生18</u>	58団体 86名参加 (資料参加 1団体)	・一般社団法人みなとこぞってネットワーク設立支援 ・市民講座「～社会的孤立問題を考える～分野を超えた課題提起から糸口を探る」 課題提起者： 松原康雄「子ども虐待問題から」 河合克義「ひとり暮らし高齢者調査から」 浅川達人「フードデザート(食の砂漠)問題から」(3名共、本学社会学部教授) ・活動スキルアップ講座 「チーム・ビルディング」 ファシリテーター：加留部貴行(九州大学大学院客員准教授) ◇担当ソーシャルワーカー： 平野幸子・武田玲子